



町長エッセイ



好天に恵まれた11月3日、恒例の小川町商工祭が賑やかに開催されました。

町内の商店、企業などのブースが所狭しと並び、野外ステージでは、小川町郷土芸能まつりが行なわれ、長い伝統を持つ津島神社の祭囃子と小川祭ばやし保存会の演奏会がありました。

時を前後して、中央・大河・竹沢・八和田公民館では「公民館まつり」が開催されました。日頃公民館で活動しているサークルの皆さんの作品展示、舞台発表、お茶席、バザーなど各館が趣向をこらした催しは、地区の内外からの人たちで賑わっていました。

11月27日は、ユネスコ登録を記念して設けられた「小川和紙の日」です。今年も小川和紙フェスティバルとして、多彩な和紙に関するイベントが組み込まれました。

図書館では、「岡嶋多紀の世界・和紙の用と技」展があり、かつて商家の帳簿として使用された細川紙の大福帳が、紙糸になり、手で織って紙布にし、衣服などに仕上げられました。

見る人が「本当に紙からできているのですか」と聞くなど、和紙の新たな可能性に触れることが出来ました。

松本恒夫